

せいらん人推協だより

発行者:晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会

第12号 令和2年3月15日発行

令和元年度事業報告について

晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会 会長 杉本 繁

昨年は平成最後の年となり、5月には輝かしく令和元年度がスタートしましたが、本年1月に入ってから中国発のコロナウイルスによる新型肺炎が日本でも発症し、このほど感染の拡大を防ぐために学校の休校や不要不急のイベント等の自粛要請が国からあって、大津市では3月3日から校園の休校（園）となりました。

毎年ですと卒業式（卒園式）の真最中で、在学中の思い出や新しく迎える新学期に対し、様々な思いが子どもだけでなく親も込み上げてくる時期だと思いますが、今年は家庭や室内での自主学習となり、特に卒業される子ども達には急な同窓生との別れには心のケアが必要ではと人間尊重の意識の中で考えさせられるものがあります。

今年度もおかげさまを持ちまして、計画しました事業をすべて実施することができ安堵しております。これからも晴嵐学区として、一人ひとりが人権を正しく理解し、「安心して暮らせるまちづくり」を目指して頑張ってまいりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。



地域人推協中南部会議研修会

令和元年8月28日（水）アヤハレークサイドホテルにおいて平野、膳所、富士見、晴嵐の4学区人推協が合同で開催しました。

第1部の事業活動報告では、各学区から人権を考える大津市民のつどい「夏の集会」やその他、取り組みの報告と今後の事業計画等の説明がありました。

第2部・講演会では「ハンセン病隔離政策によって奪われた人権」～ハンセン病回復者と家族が置かれている実態と課題～について恩賜財団 大阪済生会病院ハンセン病回復者支援センター コーディネーターの加藤めぐみさん、ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会々員である山本美恵子さんからハンセン病の背景や当時の政府が行った施策の紹介、隔離生活や差別、偏見が平気で行われていた現状を語っていただきました。特に多くの方が望まない堕胎を強制的に行われていたことは悲しい出来事でした。このような人権上の問題が二度と繰り返されることのない世界を作っていくことが我々の責任と感じた講演でした。



第51回人権を考える大津市民の集い

【夏の集会】ビデオ（DVD）上映会

第1部 子どものケータイ利用が問題を生む理由

第2部 その「つながり」大丈夫？～知らないうちに陥るネットの危険～

上記のテーマで令和元年7月6日（土）10：00～晴嵐市民センターで上映会を開催いたしました。子どもの人権をテーマに第1部ではインターネット機能付きの携帯電話を利用した青少年の犯罪、非行に至る紹介とその対策について親はどうすべきかを学びました。

また、第2部ではLINE やチェーンメール等から携帯依存症が問題となっている理由や対策の解説があり、家庭でのルールづくりがいかに大切かを学びました。参加者は112名で、多くの方に参加いただきました。



【秋の集会】テーマ：安心して暮らせるまちづくりをめざして

《基調講演》 「子育てと人権について」～自分らしく生きる～

講師：石井 裕子 氏（ケアリングクラウン トンちゃん一座代表者）

《分科会》

第1分科会 「子育てと人権について」

講師：石井 裕子 氏（ケアリングクラウン トンちゃん一座）

第2分科会 「高齢者の人権と地域の絆」 ～要支援者への取り組みについて～

講師：廣井 翔一 氏（大津市危機防災対策課）

第3分科会 「地域が考える子どもの安全」 ～学区防犯の取り組みについて～

講師：赤坂 茂樹 氏（晴嵐学区防犯推進協議会 会長）



11月9日（土）に開催、参加者は110名でした。今年は晴嵐市民センター大ホールにおいて基調講演後、各会議室に移動して分科会を開催しました。

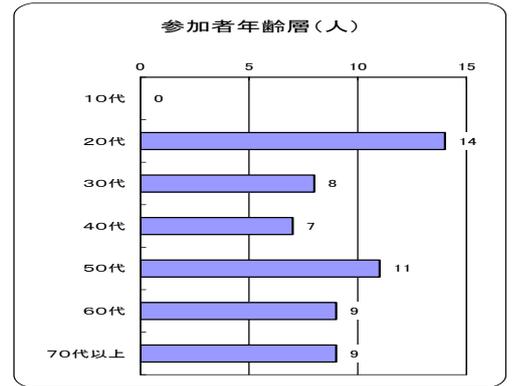
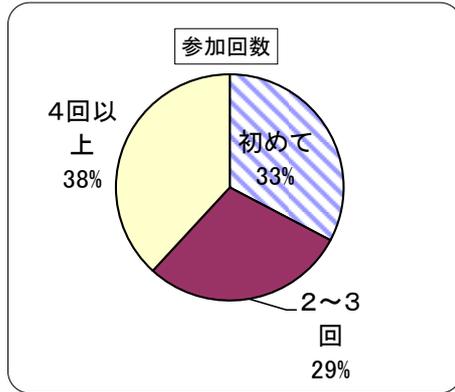
基調講演はケアリングクラウン（道化師やピエロに扮し、愛と笑いで心を癒す）トンちゃん一座（代表 石井裕子氏）にお越しいただき風船を使ったパフォーマンスと話術で病気入院の子どもたちや高齢者とのふれあい、そして生きる元気をともに見出していく過程を楽しく教えていただきました。

その後、3会場に分かれて分科会を開催。各会場とも講師からテーマを基に話題提供をしていただいた後、参加者の方々による情報交換や意見交換を行いました。それぞれの立場から新しい考え方や、ものの見方など自分自身を見直す良い機会になったとの意見がありました。各会場の状況詳細は4ページ以降で掲載しております。

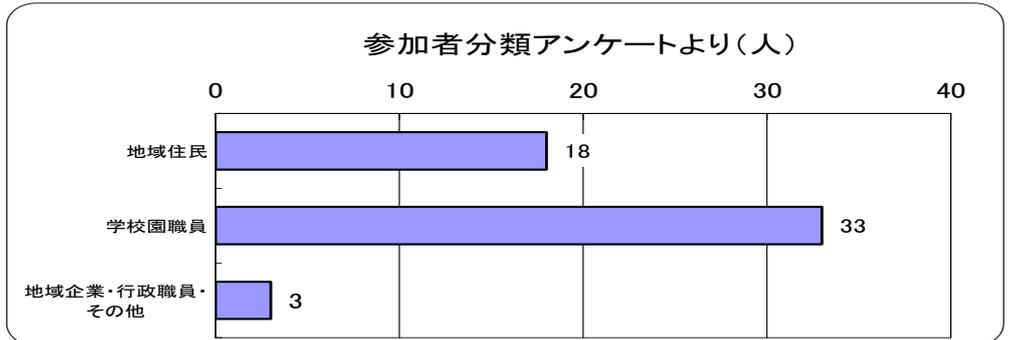
【アンケート結果】

参加者数 110名 アンケート回収 59名 (回収率 53.6%)

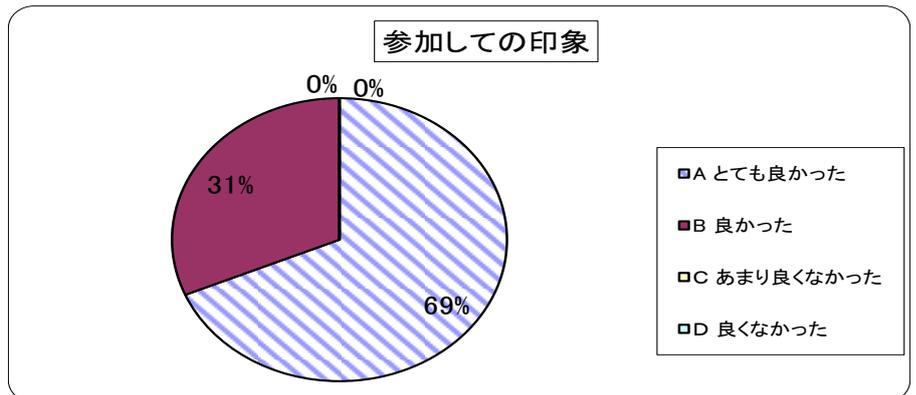
参加者年齢	
10代	0
20代	14
30代	8
40代	7
50代	11
60代	9
70代以上	9



所 属	
学校園職員	33
地域住民	18
企業・行政・その他	3



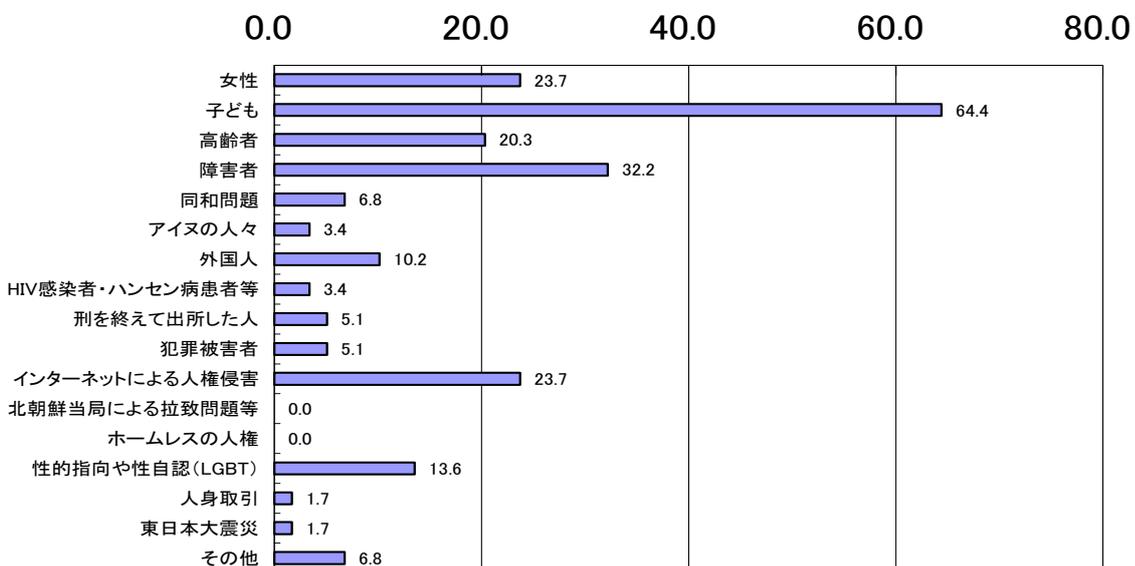
参加回数	
初めて	18
2~3回	16
4回以上	21



内 容	
とても良かった	35
良かった	16
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

話し合ってみたい人権課題(%)

※複数回答有

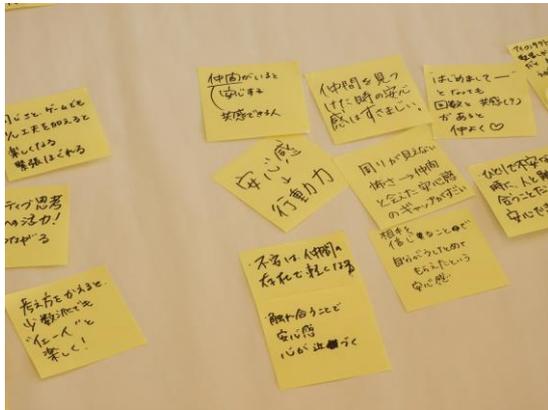


第51回人権を考える大津市民のつどい「晴嵐学区 秋の集会」各分科会での話題及び感想

【第1分科会】 テーマ「子育ての人権について」

講師：石井裕子氏、ケアリングクラウン トンちゃん一座

分科会の初めは、ゲーム感覚の行動を全員参加で行いました。皿回しやアイコンタクトでのコミュニケーション、太鼓の音の数だけ参加者が集まる椅子取りゲームみたいな動き、二人一組での運動により相手への信頼作り、目隠しで動物の鳴き声による仲間づくりにより、参加者が遊びを通じて学び、そして色々なことを感じた楽しい時間でした。その後、グループに分かれて本日の感想や思いを話し合い、グループ発表がありました。



最後に感じたことは、やっていることが誰かの役に立つことを行う事で、自分のパワーになる。そこから人にパワーを与え、与えることがまた次に広がっていく。生活が豊かになり、自分自身が豊かになるためには、ちょっとした気持ちの切り替えや振り返ることが大切なことだと感じました。

【第2分科会】 テーマ「高齢者の人権と地域の絆」 ～要支援への取り組みについて～

講師：廣井翔一氏（大津市危機防災対策課）



非常時（災害等）が発生した場合、避難場所へ早めの移動が減災に対する重要な取り組みです。しかし、地域には独自で避難できる方々ばかりではなく、健常者の支援が必要とされる方も多くおられます。

大津市では高齢者などの方々に、災害時等で介助が必要な場合に備えて、要支援者リストの作成を進めるため、対象と考えられる方々に郵送でリスト掲載に関する承諾書を得て、非常時にはそのリストを地域防災等で生かそうと進めている旨の説明があり、その後参加者全体で意見交換や情報共有の話し合いがありました。

話し合いの中で一番多く関心もたれたことは、個人情報としての扱いと自治会等での要支援者の把握が出来るのか？本当に要支援者として登録して欲しい方が、書面提出されるのか？自治会の加入者、未加入者の問題。避難場所への移動の問題等を話し合ったが、専門的な分野での問題でもあり、参加者としては自分の身は自分で守るが、近所で支援を必要とされている方の把握に努め、共助出来るように普段の付き合いや行動の中で行っていくことが重要な事だと感じた集会でした。

【第3分科会】 テーマ「地域が考える子どもの安全」 ～学区防犯の取り組みについて～

講師：赤坂茂樹氏（晴嵐学区防犯推進協議会 会長）

学区防犯推進協議会の赤坂会長より、晴嵐学区における防犯活動の取り組みがプロジェクターによるスライド映像を通じて紹介があった。地域安全委員を始め自治会長、子ども安全リーダー、スクールガードなど多くの方が子どもの安全に取り組みやパトロールをしておられる実態がよく分かりました。その中で、スクールガードをしておられる方に、子どもから「私はもうすぐ卒業します。長い間見守っていただき有り難うございました。」との心温まるお話もあり、胸が熱くなりました。また、商店街を始め学区内に防犯カメラが設置されていることや自転車盗難防止啓発活動等、知らなかったことが聞けたことも良かったとの声がありました。



また、参加者からの意見・発表で晴嵐小学校が行っているICタグを利用した登下校確認システムの紹介がありました。このシステムは学校に設置のセンサーにICタグをキャッチして登下校の時間までわかり、防犯カメラとの連動でどのような服装で登下校していたのかもわかり、もし事件があった時の情報源として優れたものです。ただ、優れたシステムですが個人情報の関係でタグ利用者は全体の2/3であることも報告されていました。

子どもの安全は校園だけでなく、地域も一体での取り組みが重要と感じました。最後に講師から話があった誘拐にあわない5つの約束を記載します。各ご家庭でも、お子さんに教えて戴き子ども一人ひとりが犯罪に巻き込まれない街づくりを目指していきたいと考えています。

—誘拐にあわない5つの約束—

1. 一人では遊びません
2. 知らない人にはついていきません
3. 連れて行かれそうになったら大声で助けを呼びます
4. 誰とどこで遊ぶか、何時に帰るのかをお家の人に伝えてから遊びに行きます
5. お友達が連れて行かれそうになったら、大人にすぐに知らせます



※「秋の集会」アンケート用紙で、「その他のご意見」を記載していただいた中から、一部ではありますがご紹介します。

* トンちゃん一座を招いていただき有り難うございます。堅苦しい学習会ではなく、身体で感じる学習会でした。これからもこのような学習会（集会）が良いです。 (60代 学校園職員)

* 本日は大変勉強になりました。生きる力をいただき、ありがとうございました。ワークショップの内容は、また園に持ち帰って、してみたいと思います。 (50代 学校園職員)

* ケアリングクラウンの意味がよくわかりました。とても素晴らしい一座です。第1分科会で実践していただいた方法、自分の仕事の中で活用させていただきたいです。ポジティブに物事を捉えていきたいです。 (60代 地域住民)

- * 講演とワークを通して自分自身の価値観や、考え方を見つめ直すことが出来た。自分らしさや自分なりのプラスの捉え方を見つけていきたいです。園の子どもにもクラウンのように関わりたいと思います。(20代 学校園職員)
- * 秋の集会で初めて体を動かした。学ぶことが多く、考え方ひとつでポジティブになれそうな気がした。また是非して欲しいです。(30代 学校園職員)
- * 人権って、すごく難しいイメージがあります。でも今日の3時間を通して、自分の中で前向きに過ごしていくことで生活が豊かになるなと思いました。(20代 学校園職員)
- * 人権についてのことだったので、硬い雰囲気なのかなと思っていましたが、風船を飛ばしたり、身体を動かしたり、楽しい雰囲気の中で人権のことを考えられたのが良かったです。(20代 学校園職員)
- * 「人権」とだけが前面に出る感じで参加希望する人が少ないと感じますが、どう興味を持ってもらうか広告の仕方で精査した方が良いかと思いました。(40代 地域住民)
- * あっという間の時間でした。人とふれあう、関わる、そして自分を知る、楽しい中で知ることが出来ました。今かかえている問題をポジティブに考えて、相手との関係を築いていきたいと思えます。(60代 未記入)
- * 第1分科会に参加しました。とても楽しかったです。楽しいだけでなく、大変興味深く、人にとって大切なものは目に見えず、やはり心の在りようがいかにか大事か知ることが出来ました。ずっとずっとトンちゃん一座さん、頑張ってくださいね!!赤い鼻、使って園でもやってみます。(40代 学校園職員)
- * 違う学区の集いに参加したことが何度もありますが、今までで一番楽しい集いとなりました。大きなテーマですが、自分の職場に活かせることばかりでした。(30代 学校園職員)
- * 第1分科会に参加させていただきました。トンちゃん一座の話してくださる心のケア(自分自身)、ポジティブに変換する思考、そして人と人とが繋がる、ほっ♡と安心、共感できる遊び、始めは少しドキドキしていましたが、最後は笑顔で心がぽかぽかになりました。現場でも今日感じたこと、経験したことを活かしていきたいです。(30代 学校園職員)
- * 身近な問題であるため、貴重な意見、思い等を聞くことが出来た。(70代 地域住民)
- * 基調講演では、こういう取り組みがある事も初めて知り、心のケアの大切さにも心を打たれました。分科会でも、とても活発な意見が沢山出て、皆さんの意識の高さに驚かされました。(50代 学校園職員)
- * 気付かない多くの意見があり、参考になりました。(70歳以上 地域住民)
- * バルーンでみんなの心が一つになる場面は、とても素敵だなと思いました。学校でも楽しい時間を過ごすときに使っていきたいと思えます。学校の安全について、何を考えているのか地域の方々からも沢山の話をいただいたので良かったです。(30代 学校園職員)
- * 普段は目にする事の多いスクールガードの方が、見守り活動の他にも様々な活動をされていることに驚いた。また、自分にもできることを探したいと思う。(20代 学校園職員)
- * どんなことでもいいので、人や社会の役に立つことをして生きていきたいと思えました。(40代 学校園職員)



晴嵐学区 人権講座

晴嵐学区人権講座が、令和2年1月11日（土）の10:00～晴嵐市民センター3階ホールで開催しました。講師は、滋賀県教育委員会生涯学習課主任主事で、東近江市にある滋賀県平和祈念館に勤務の谷澤真也氏から「滋賀にまつわる戦争の記録」～語り継ぐ平和への願い～と題して講演をいただきました。これから先へ語り伝えたい事として①戦争中の暮らし。②戦争中の子ども達。③戦地に行った人達。④県内の軍事施設。⑤滋賀県の主な空襲。を具体的にわかりやすく話され、特に晴嵐近郊に視点を当てての話もしていただき、身近で起こった出来事として関心が高まりました。



昭和初期 1931 年～1945 年の 15 年に渡る戦争を知る県下で 75 歳以上の割合は 12.2% である事や県民の体験談等を身近な実物を示して下さり、興味深く聞くことができました。昭和 17 年当時の食事内容や金属品の供出や釣り鐘の供出が続き、金属類に代わって陶器用品が作られました。手榴弾や地雷等も陶器で作る為、当時 13 歳で作業に関わった杉山正男さんの事を話された。疎開で家を離れ信楽に行き、土をこねて地雷作りをし、授業は無く作業ばかりの毎日であったとのこと。又、彦根の近江絹糸工場では、戦闘機を組み立てて、

翼を作っていたとのこと。国防婦人会の方は竹槍訓練や戦争を後ろから守り、慰問袋作り、千人針作りなどをしていたこと。昭和 16 年には全国の小学校は国民学校となり、子どもは身体を鍛え国に対する奉仕の心を育てる場となりました。子ども達の遊びも「戦争ごっこ」で小学校の運動会も手に棒を持ち、這って前進するもの。幼稚園でも木銃の様なものを持ち「ごっこ」をしていました。また、集団学童疎開があり滋賀にも大阪から、12,000 人の子ども達が生活されていました。

戦地に行く為の徴兵検査が行われ甲乙丙に分けられ、受かれば「日本晴れ」の気持ち、受からず戦争に行けない者は「クズ」と言われたそうです。赤紙をもらおうと遺言状を書き毛髪を切った話や、14 歳で入隊し、20 歳まで訓練を受け 24 歳で帰郷した人の話、19 歳で死亡した人の事も話されました。

県内にも多数の軍事施設があり、大津市では現在の大津商業高校や皇子山球場、際川など地域が軍事施設として存在していました。

滋賀県下も守山空襲が昭和 20 年 7 月 30 日午後、空母ハンコックから発進した戦闘機により空襲を受け、死者 11 名負傷者 22 名。大津市の東洋レーヨンに落された模擬原爆（パンキン爆弾）は長崎へファットマン（原子爆弾）を落とす試験爆弾として落とされたそうです。16 名の死者、100 名以上負傷者でした。

最後に戦争の記憶が遠ざかる時、戦争がまた私たちに近づくという事を胸に、戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じる貴重な講演となりました。



晴嵐学区 人推協役員県外研修会

令和2年2月19日(水)に参加者21名で大阪市中央区、大阪城公園の一角にある「ピースおおさか 大阪国際平和センター」を訪問しました。

「ピースおおさか」は、平成3年に、平和の首都大阪をめざし、大阪府民・市民の協力のもと、世界平和に貢献することを目的に大阪における平和の情報発信基地として開館し、188万人の来場者を迎えています。そして、戦後70年となる平成27年に、身近な地域の出来事である「大阪空襲」を中心に展示リニューアルされました。(展示のしおり参照)

研修当日も、たくさんの中学生が平和学習に訪れていました。私たちも生徒さん達と並び世界が戦争へと向かっていった情勢を映像で、戦争中の人々の暮らしを当時の手紙や資料などの展示物から学びました。そして多くの犠牲者を出し焼け野原になった大阪・大阪空襲の実態が写真、実物資料体験者の証言などで伝えられています。

今、私たちは物に恵まれて安心と安全に守られて生活をしています。8回にわたって米軍から受けた大阪空襲で失われた多くの命、苦しい時代を生き抜いて今の社会を築いてきた人々の汗と力を忘れずに次の世代に伝えることの大切さを感じました。

午後からは、空襲の後、めざましく発展を成し遂げた現在の大阪・天王寺界限を散策しました。



写真は戦禍のなかを逃げまどう母と子を表現した戦争犠牲者のモニュメントです。



人権啓発シンボルマーク
[人権 = 心のマーク]

【編集後記】

12号を編集中はコロナウイルスによる新型肺炎が、日が経つにつれ、日本国内での感染者が多く報道されていました。感染経路や予防対策、治療方針等が見えない中、クルーズ船に乗船の方々、中国から帰国の方々などが一時隔離されたことは、やむを得ないことかもしれませんが、心無い言葉が感染者や家族に風評等に向けられた視線が新たな人権問題にならないよう願うばかりです。今回の人権講座と県外研修会は戦争の悲劇を取り上げましたが、生命を大事に考えることは戦争に限らず新型コロナウイルス対策も一人ひとりが真剣に考え、拡散させないように行動すべきと考えます。

「人推協だより」のバックナンバーや人権活動、研修会についてのご意見・ご要望がありましたらご連絡願います。

晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会
電話 537-0743 (晴嵐公民館内)